

会則改訂の趣意書

平成20年6月2日（総会承認）

本会は、産官学の諸機関および多分野に分散している研究者と技術者が横断的に結び付いて、廃プラスチックの化学リサイクルに関する研究を、学術的かつ学際的な立場と広い視点をもって推進し、既存技術の発展と新技術の開発などの水準を飛躍的に向上させ、もってリサイクル社会の構築に貢献していくことを目的として、1998年7月に「プラスチック化学リサイクル研究会（Research Association for Feedstock Recycling of Plastics, Japan；略称FSRJ）として設立されました。以来、国内討論会の開催、国際会議の主催、表彰事業の実施、ニュースレターの発行、本会目的に沿った各種講演会およびシンポジウムの主催と共催等、様々な活動を通してプラスチック化学リサイクルの研究と実施技術の推進のために活動し、環境に調和した持続型社会の実現に向けて社会貢献の一翼を担ってきました。

爾来10年間、本会をとりまく社会の変化は発足当時に予想されたよりも速く、様々な材料に対するリサイクルの必要性がますます求められる時代になってきました。プラスチックは有機材料以外の資源や材料のリサイクルさらに生活スタイルとも深く結びついています。最終商品中に占めるプラスチック部品の割合や複合材料中のプラスチック成分の比率が高まり、さらにはバイオマス由来材料等が今後増大する状況を眺めると、プラスチックを主眼としつつ関連する他の材料・物質も視野に入れてひろく活動すべき時代になったと思われる。この時代の変化に鑑みて、本会は今後の活動の深化と同時に活動の幅を拡げること、さらにその結果を持続型社会の実現に貢献する姿勢を具体的に示すべき時期になってきたといえましょう。そこで従来 of 活動実績を損なうことなく、今後の目標と活動範囲ならびに方向性を明確にして、専門家集団として会員のみならず社会の理解と支持が一層得られるように本会を変革し、当該活動にかかわる政府省庁ならびに本会以外の学術・産業団体等との連携を深めてゆく必要があります。

今後の活動の方向としては、世界ではすでに広く認知されているFSRJ（Research Association for Feedstock Recycling of Plastics, Japan）の呼称のもとでのネットワークを引き続き維持発展させることはもとより、国内ではプラスチックのみならず関連する材料の循環再生と有効利用を目標とする学術団体として「化学的現象と化学的手法」にかかわる「リサイクル科学」の発展を図るとともに、この「科学と技術」の社会への適用と展開を目標とした産学官の英知を糾合する核へ深化させたいと考えます。

また、会則上の本会の目的は「プラスチックの分解または関連現象など化学リサイクルに関する科学および技術の発展を図ること」とされていますが、これを「プラスチック及び関連する材料の化学的手法を取り入れた循環再生と有効利用に関する科学及び技術の発展を図ること」まで幅を広げるべきであろうと考えます。

以上の考えのもとに、創立10年目を区切りとして本会の名称を含め会則の再検討をすることにいたしました。この改称にあたっては、本会会員が忌憚なく意見と知識情報を交換できる場を提供する、とする本会設立時の主旨と精神の維持に留意すべきことは言うまでもありません。